

TPPは

稲田朋美 VS 田中康夫

自民党衆議院議員

新党日本代表・衆議院議員

撮影・佐藤英明

「日本壊国」宣言だ！

日本の国柄の問題

田中 原発マンセー（爆）な田原総

一朗論文を先月号で掲載した『WILL

編集部 今日にはTPPの話です！

』から脱原発派の田中康夫にお座敷掛かるなんて、いやあ目出度い！まずはこれを言っておかないとね。

訳されているけれど、これこそ恣意的、意図的な外務省、経産省の誤訳だね。

（笑）

田中 そうでした。TPPは羊の皮をかぶった狼。トロイの木馬。そもそも、

日本で最も非関税障壁な存在の記者クラブは、カナダとメキシコも参加の意向と誇らしげに書いているけど、アジア側ではインドネシアもフィリピンもタイも中国も台湾も韓国も参加しない。いや、参加すら求められていない。

TPPは『環太平洋戦略的経済連携協定』と

だから、環太平洋の「環」輪っか」を意味するPan-Pacificでなく、太平洋の向こう側のTrans-Pacific。羊頭





狗肉でしょ。自由貿易を装った保護貿易。日本とアジアを分断し、アメリカ一人勝ちのブロック経済。TPPは「Total Poison Program = 完全毒薬構想」の略号だね(爆)。
稲田 推進派はなぜか楽観的で「バスに乗り遅れるな」と言うけれど、行き先を分かっているのかと疑問です。どこに連れて行かれるか分からない、しかも途中下車もできないバスに国民を乗せるわけにはいきません。バスは乗り遅れるかじゃなくて、行き先が重要でしょう?」

稲田 農業だけの問題じゃない、日本の文明、国柄の問題なんです。これにどうして保守派が強行に反対しないのかが、とつても不思議。
田中 そうなんだよ。でも、稲田さんや僕、城内実さんといった議員が呼び掛け人となって、「TPP交渉協議への参加表明を十一月十二日からAPECの場で日本政府は行うべきでないとする国会決議の実現に關

田中 日本人の仕事と生活を奪う話ですから。遺伝子組み換え食品もBSEの牛肉も無条件で流入。保険、金融、医療、通信、電波、公共入札

する呼び掛け」を衆議院で行ったら、みんなの党を除く全ての政党・会派の議員から、僅か三日間で二百三十二人もの直筆署名が集まった。
勝谷誠彦さんが愛読する朝日新聞が記者会見の写真を掲載してくれたけど(苦笑)、僕の両脇が稲田さんと社民党の阿部知子さん(笑)。「南京」を巡って真逆の立場の二人が一緒に会見に臨むとはね。

稲田 不思議な光景でしたよね(笑)。 右から左までの「反対」陣営

田中 でも、これはとても象徴的な写真でね、戦後をはじめて日本人がイデオロギーでなく、日本国民の仕事や生活を奪い取るのか、売りわたすのかと立ち上がったのが反TPPだったと。議員会館の前に集っていた人々は、日の丸を掲げたチャンネル桜系の保守団体がいれば、農団連と呼ばれる共産系の農業者もいる。



たなか やすお

1956年、東京都生まれ。一橋大学法学部卒業。大学在学中に書いた『なんとなく、クリスタル』で昭和55年度の文藝賞を受賞。95年、阪神・淡路大震災後、神戸でボランティア活動に従事。2000年、長野県知事に就任。2002年7月、県議会の不信任決議を受け、失職を選択。同年9月、長野県知事選挙で再任。2005年8月、「新党日本」を立ち上げ代表となる。2007年7月、比例区にて参議院議員に当選。2009年8月、兵庫8区(尼崎市)より衆議院議員に当選。

国会議事堂を取り巻いた六〇年安保はイデオロギー闘争だった。一般

の国民は明日の自分の暮らしが心配で正直、安保どころではなかった。

でも今回は違った。皆が、これは自分自身の問題だ、と感じたんだ。

だって、京都大学の中野剛志さんと一緒に有楽町のイトシア前で街頭

演説した時も、日の丸を掲げる人々と、自然農の環境団体「ナマケモノ倶

楽部」のノボリを持った人々が一緒に、「そうだ、日本を壊すな、日本を

護れ」と声を挙げるんだから。こんな展開は日本ではじめてだと

金獲得の闘争だと勘違いしている政治家には分からないだろうけど。

稲田 田中先生が代表となって、「衆議院の超党派で、交渉参加を表明す

べきでないとする国会決議を目指しましょう」と呼び掛けたのが、十一月

四日の金曜日でした。田中 ええ、城内さんと一緒に「国会

決議の実現に関する呼び掛け」を議員会館の各部屋にポスティングしたん

です。そこには次のように書きました。

「日本は一九一一年(明治四十四年)、小村寿太郎翁を初めとする数多

思います。古めかしい政局的な視点で見

ようとする記者クラブ体質

の新聞社、テレビ局や、農

業者への補助

くの先達が、血を吐く思いで努力を重ねた末に、関税自主権を回復しました。

百年後の二〇一一年(平成二十三年)、我が日本は、国家の根幹たる関

税自主権を自ら放棄しかねぬ、きわめて深刻な局面を迎えています。

「TPP」環太平洋戦略的経済連携協定」とは一体、如何なる代物なのか。日本の経済に社会に、国民の生

活に未来に、如何なる影響を、或いは如何なる効果をもたらすのか。適

正確実に語れる人は、恐らく、一人もないでしょう」

翌週七日の月曜日には、公明や共産からも呼び掛け人が加わって、夕

方に会見を開いた。

「二枚舌宰相」の愚

稲田 こんなに重要なことを、たっ

た一回の集中審議だけで、十分な国会議論もなく決めてしまうなんて、



いなだ ともみ

福井県生まれ。早稲田大学法学部卒業。85年に弁護士登録、「百人斬り」報道名誉毀損訴訟などに携わり、05年、第44回衆議院議員選挙で初当選。09年、第2期。自由民主党副幹事長、「伝統と創造の会」会長。

どう考えてもおかしい。しかしご存知のように、民主党はあの「詐欺選挙」で議席を三百も取っています。条約の批准に関しては衆院の優越がありますから、野田総理のやろうとしていることがどんなにばかっていたって、採決になったら通ってしまうはずなのです。

ところが、「交渉協議への参加表明に反対する国会決議を目指そう」と私も小野寺五典先生と七日の本会議場で「TPPは農業だけの問題ではなくて、国の文明、国柄の問題であって、参加すれば日本の国柄が破壊される

んですよ」といつて呼びかけたところ、自民党だけでも六十名以上の署名を集めたんです。結果、自民だけで九十八名集まりました。

民主党は最初、百名を超える賛同者がいたのですが、圧力で少し消えて(笑)、九十六名。民主党の議会運営委員会の理事も二名、委員も五名署名しています。全体で計二百三十二人が集まりました。

本来ならどんな条約でも批准されるはずの衆議院で、過半数におよぶ反対署名が集まったことがすごいと思います。

田中 本来、署名を集めるといふ行為は、左翼的市民運動的イメージが強いよね。でも今回は違った。僕が代表の新政日本は個人タクシー(爆)で、ちっとも静かじゃない亀井静

香代表の国民新党と与党統一会派を組んでいるんだけど、一所懸命に稲田さんと小野寺五典さんが署名集めに駆け回っている議場の自民党側に行くのと、「(一日の本会議の) TPP 反対の代表質問、よかったよ」署名、もう済ませたよ」なあって重鎮議員から声を掛けられてね。

人間、信じられるなあというか、人間の体温や心の機微を感じたね。それって、政治に一番大事な点でしょ。予算委員会の集中審議では曖昧な答弁を繰り返していたのに、会見では一転、どや顔で「私は愛する日本の産業と農業を必ず守ります」と大言壮語した二枚舌宰相とはまったく違うんだなあ。

なにしろ、「便所の友」で知られる薄っぺらな人生訓の相田みつをだからねえ。一国の宰相としては、せめて武者小路実篤や志賀直哉レベルで踏み止まって欲しいのに、「青年の主

張」以下でしように。

「この辺でいいねと野田が言ったから11月11日は『壊国』記念日」って、twitterでつぶやいた人がいるんです。秀逸だね、と僕も「ポスターに印刷のスローガンを以下に変更との情報？」『ひとつひとつ、乗り越えていく。』↓『ひとつひとつ、崩れ落ちていく。』『国民の生活が第一。』↓『米国の機嫌が第一。』と打ったら大受けでした。

日本が溶けちゃうかもしれないのに笑ってる場合か、と生真面目な人からお叱りのダイレクトメールもいただいたけど、国民を愚弄しているのは腹話術人形の枝野幸男や、どや顔の宰相NÖDÁでしょ。

Oの上にドイツ語的音引き記号を、Aにはアクセントゲグを付けて疑問的ニュアンスで「ノ〜ダ？？」と読ませるNÖDÁは、スター・ウォーズの長老ヨーダと違って無定見、

無節操。鳩山・菅の両名のほうが真つ当に思えてきちやうほどだよ。「だって、どぜうだもの、仕方ないんだよ」みつを。たしかに、どぜうには耳が付いてないものね。

犬も食わない訓詁学派

稲田 信じられないのは、民主党内の反対派だったはずの議員ですよ。

田中 野田総理が十一日に「TPP交渉参加に向けて協議に入る」と会見したら、あれだけ反対していた山田正彦前農水相は「ほっとした。事前協議に留まった」と満面の笑み。原口一博議員も「完全勝利。私たちの意図したとおり」と胸を張ったと聞いて、仰け^ぞ反りましたよ。

英訳すれば、「交渉参加に向けての協議入り」も「交渉協議への参加表明」も同じですよ。それを「協議に参加するだけで、交渉参加とは言っていない」だなんて、犬も食わない訓詁学派か、

あんたたちは！

稲田 「離党も辞さない」と言っていたのに。一体、どうなっているのか。あの「ほっとした」という発言は、自分たちが離党しなくて済んで「ほっとした」って意味でしょうね。

田中 それはすでに多くの国民に見透かされていますよね。自民党の反TPP議員は「TPP参加の即時撤回を求める会」なのに、民主党は相変わらず「TPPを慎重に考える会」。いまでも毎朝、霞が関の人間を呼んでTPP勉強会。で、説明が足りない資料請求、資料請求と声を挙げる。野党気分が抜けきれていない。延々とピーチク学級会を続けているんだよ。で、時間切れとなっちゃう。

もしかしたら、これだけの補助金や補償金を確保しましたよ、と農業者に言っただけの手柄にしたいのでは、と疑いたくなるよ。ベア交渉で経営側と握って、新規手当や手当増

額で御茶を濁していた労働貴族な組合幹部を連想しちゃうよね。

「口先番長」のDNA

稲田 卑怯の最たるものが野田総理ですからね。国論を二分する大問題にもかかわらず、総理はまったく国会での論議をしなかった。「表明」を一日伸ばしたので、十日に集中審議をしても「交渉参加か否か」がはっきりしないから、単なる公聴会のようになってしまいました。

とんでもない国会軽視、国民軽視ですよ。本当に許せません。

田中 おっしゃるとおり。TPPおぼけと政調会長の前原誠司が言ったら、最初は威勢がいいのに全部迷走して途中で逃げちゃうお前さんこそ、ハツ場おぼけ、JALおぼけ、尖閣おぼけじゃないかと亀ちゃん(亀井静香)が苦言を呈したという話があるけど(苦笑)、その前原氏に僕が

命名した「口先番長」は、実は彼だけじゃなく、民主党幹部の共通DNAだったんだ、と痛感したよ。

だって、所信表明演説で、消費税の「しょ」の字も言っていないのに、ちびっ子ギャング様の安住淳財務大臣と一緒にカンヌへ出掛けたら、消費税増税を「国際公約」しちゃうんだもの。

稲田 どうして国民の生活にかかわる重要なことを全部、海外で言うんですかね。しかもサービスよろしく。

ええかっこしいで、相手に気に入られるようなことを言いたくなってしまうのか。鳩山さんも菅さんも野田さんも、みんなそうですよね。目の前の人に喜ばれることを言ってしまうって結局、できない。

田中 会社でも部下を統率しきれない。家庭でも家族から尊敬されていない。そうした困ったオジさんが会社の経費で海外のリゾートに行く

と、急に浮かれて大言壮語して、美^{もたせ}人局に引つかかる。そんな展開ね。

国民に対する発信を何もしないまま、自分の都合のいいときだけ記者会見を開いて、言いたいことだけを言っている。哲学も覚悟も定見もない、戦後最悪の指導者と後世の歴史家が言いかねない。

稲田 もし仮に、TPPが野田さんにとって昔からの「自分の信念だった」というなら、もっと早い時期から論議を重ねて、サンドバッグ状態になっても意志を貫くべきだったでしょう。ところが、議院運営委員会では反対署名を行った委員を差し替えて国会決議案を本会議に上程できないようにしたり、「交渉参加に向けた関係国との協議」なんて卑怯な言い方をする。こういう人が日本のトップだなんて、情けないにもほどがある。

田中 そうだよな。急速に盛り上がった議員署名が触^{しよくばい}媒となつて、自民、

公明、社民に国民新党・新党日本、無所属の五党派共同で「APERCの場での『TPP交渉協議への参加表明』に反対する決議案」を十日朝、衆議院議長宛に提出した。ところが民主党は、上程するか否かを判断する議院運営委員会の民主党委員を差し替えて却下したんだ。委員長を含めて与野党で二十五人。民主党は十五人。ところが、民主党の理事二人、委員五人の計七人が署名していたから、泡を食っちゃった。

何ともその日暮らし内閣「なんだよね。僕とは意見は違ったけれど、小泉純一郎は「郵政改革」を最初から最後まで言っていたからね。その意味では、いまの首相と違って、抜き打ち表明ではなかった。

「ISD」は何の略？

稲田 少なくとも、小泉さんには覚悟があった。野田総理に覚悟なんて

ありませんよ!!! 大体、ISD条項も知らなかったじゃありませんか。

これは企業や投資家が、投資先の相手国の規制や制度によって損害を被ったとき、国際救済裁判所へ訴訟を起こせるといふものです。近年、日本は外資に狙われている森林や水源地の土地取得、空港の外資規制などを法整備していこうという方向で進んでいたはずですよ。

ところが、TPPでこれらの規制が「投資家に不利」と判断されれば訴えられるということですよ。これは、日本の国益に合致する規制を設けるための立法権も司法権も侵害されることになり、主権侵害であり、民主主義の否定になってしまいます。

田中 なんだって、ISDは「インチキな・訴訟で・大打撃」の略ですから(笑)。「非関税障壁」って言葉も怪しいよね。訴訟社会のアメリカが考えそうな、総会屋もビツクリの難癖話なんくせばなし

だ。早い話が、一ミリでしかない段差でも取って転んだ振りをして、「ほら、バリアフリーになってないじゃないか! 訴訟を起こすぞ!」と脅される社会になるんですよ。

十一日の予算委員会で、小泉チルドレンだった佐藤ゆかり議員も反TPPの論陣を張って、ISD条項についても「国内法が曲げられることについてどうお考えか」と迫ったのは圧巻でした。

ところが野田総理は、ISD条項についてまったく知らないどころか、条約が国内法に優越することもよく分かっていなくて、何度も審議がストップした。議事録から答弁部分を読み上げてみましょうか。

「まさに条約と国内法との上位関係だったから、それは条約です。だから、だからこそ、この我が国が守ってきたものでいいものだというものを、条約を結ぶためにそれを殺してい

く、壊していくという事はしない
というのが基本的な考え方」

ダイジョウウビかね。これが民主党
保守派の「真打ち」とマスコミで評さ
れていた人物の認識ですよ。

「不利になったら交渉のテーブルか
ら降りればいい」と言い放つ彼の周囲
の、同じく保守派を名乗る推進派の
頭のなかもMRIで検査したほうが
いいね。だって、TPPは例外品目
なしの真っ裸で交渉参加するのが大
前提なんだよ。

米搗きバツタでいいのか！

稲田 国内法がはずたにされると
いうのに、外務省に聞いたですと「発
展途上国に日本企業が出て行くとき
に、不利な規制があれば阻止できる」
と答えるんです。つまり、ISD条
項は日本企業を守るためにあると。
田中 「途上国に対しては日本が有利

にISD条項を使える」って、早い
話が、名誉白人を気取る日本が、上
から目線で同じ黄色人種イジメをす
るって構図。日教組をはじめとする
民主党の「人権派」は、弱い者イジメ
だと怒らなくちゃ。ドラえもんで言
えば、アメリカというジャイアンが
いて、「その友達です」って米搗きバ
ツタしてるスネ夫が日本。そして、
のび太である途上国を、腰ぎんちゃ
くのスネ夫がいじめるのを、よしと
するよな話。

稲田 自分だってジャイアンに巻き
上げられるのに、そこは言わない。
いまだって、すでにデリバティブ取
引などで日本の中小企業は多大な損
失を負っています。アメリカ型の「な
んでもあり」の市場原理主義は、人々
を幸福にも豊かにもしないことはウ
オール街のデモを見ればわかりま
す。そういうカジノ資本主義を規制

して、まじめにものづくりをしてい
る中小企業を守ろうとっていたと
きにTPPをやるなんて、矛盾もい
いところ。TPPは日本をアメリカ
の価値観で染めるということですか
ら。そんなことをしているうちに、
日本はつぶれてしまいますよ。

田中 グローバルスタンダードです
らない、「アメリカンスタンダード」
に合わせるとい話を、そのまま呑
み込んでいます。

『夕刊フジ』で「風雲永田町」を連載
している鈴木棟一さんが言っていた
のは、「戦前は天皇陛下に対する^{しよ}承
詔^{しよ}必^{しよ}謹^{しよ}」、つまり「かしこまって聞き
なさい」が、いつのまにか「絶対に聞
きなさい」になって、虎の威を借りた
連中の思惑で、陛下の意思とは裏腹
に戦争に突入していった。

戦後、マッカーサーなんてガム嚙
んだチンピラみたいな輩と並んで写

った写真が流布して、権威が薄れてしまった。承認必謹は、終戦の詔勅が最後だったと。ではいまは誰に承認必謹を誓っているのかといえ、アメリカなんです、と言っていた。

実際そのとおりで、アメリカの言うことをありがたく拝聴している。しかも、腹のなかでペロツと舌を出しながら聞いているというんじゃないやなくて、ただただ頭をたれて無批判、無条件に受け入れてしまう。本当の承認必謹は消えてしまった!……って、こんなことを田中康夫が言わなければいけない(笑)。そういう世の中になったことですよ。そして、頭を下げて「乗せてもらった」バスの行き先はどこか。小林よしのりさんも言うように、地獄ですよ。

各紙「TPP大賛成」

稲田　そこまでアメリカ様の言うこ

とを聞かなきゃいけないんですか、と。アメリカに守ってもらっているからって、「何が何でもご機嫌を損ねちゃいけない」と過度に思い込んでいんじゃないでしょうか。しかも、アメリカ軍が日本に駐留している一番の理由はアメリカの利益であって、日本を守るためではありません。どこまで日本はおめでたいのでしょうか。

田中　われわれは何も、「反米」ではないんです。いまや世界中のどの国だって、アメリカとの関係がなければやっていけない。けれど、「屈米」「属米」というのは話が違う。本当に日米関係を大事にするなら、それは夫婦でも親子でも恋人でも、相方が歩むべき道を見失っている時には正心誠意、道理を説いてこそ真のパートナーでしょ。TPPに対する立ち位置で、保守のなかでも違いが鮮明

になってきましたね。

稲田　不思議なことに、保守を自認する産経新聞もTPPには前のめりで賛成。日経はもちろん、朝日も読売も、大新聞は全紙賛成です。まだテレビのほうが慎重な姿勢が見えて、「遺伝子組み換えを表示するかどうかがという問題が出てくる」など問題点を指摘しはじめつつあります。

田中　B層と小馬鹿にされていた主婦層が不安と疑問を感じはじめてきたから、テレビもいわざるを得なくなってきたんだね。実は、電波放送権も自由化されれば年間数兆円で取引されて、暴露メディア王のルパート・マードックが日本のTV局に君臨する。再販制度は非関税障壁だと言われて、護送船団の新聞業界も淘汰される。NHKも「税金使ってやっているのは非関税障壁」って言われますよ。テレビも新聞も、自分たち

が影響にさらされる覚悟があるのかと。

壊国目指す「どぜう」

稲田 地方公共団体も、公共事業などを地場の企業に発注することでその地方にお金が落ちるようにやっているとわけですが、それも「非関税障壁」といわれれば許されなくなる。町や村の事業の入札までが英語で行われる、ということになりかねない。日本語が最大の非関税障壁だといわれかねない。こんなことをしていたら、日本はガタガタになってしまう。

田中 バラク・オバマ大統領は昨年、横浜APECで何を言ったか。「今後五年間で輸出を倍増する。輸出が十億ドル増えるたびに、国内の雇用が五千人増える。そのためにTPPをやる」。続けて、「(日本のような)巨額の貿易黒字国はアメリカに輸出させずれば経済的に繁栄できると考え

るべきではない。輸出への不健全な依存を止め、内需拡大策を取るべき」と。つまり、アメリカは輸出を拡大するが輸入は拡大させない、と宣言してるのね。バスに乗り遅れて焦っているのはアメリカなんです。

稲田 どうしてこれだけ問題が懸念されるのに、TPPではら色の未来、とばかりに突っ込んでいこうとするんでしょうか。

田中 「日本という国がなくなってもいい」と述べた初代民主党首相の妄想を、どぜうも着実に実行しているんじゃないかね。

そんなにアメリカに媚びを売りたいなら、日本という国がなくなっただけでいいなら、アメリカの五十一番目の州になっちゃったほうがいいでしょう!! 一億二千万人ももアメリカ国民になって選挙権を持てば、アメリカの暴走を防ぐ内なる抑止力になる。日本人の大統領だつて

誕生するかも(爆)。いまは要求だけ呑まされて、投票権もない状態。

稲田 アメリカに頭が上がらないというなら、自主防衛に踏み切るしかない、という話になりますよね。

田中 ところが不思議なことに、「自主防衛!」といっている前原、口先番長、や長島昭久が、赤い官房長官の仙谷由人と一緒になってTPPを推進している。防衛上もTPPだなんて、嘘八百。誘われていない中国を刺激するだけで逆効果でしょ。

あの福島瑞穂議員ですら、「なぜ国会でなく会見で表明するんだ!」と正論を吐き、名前に引つ掛けて「美しい瑞穂の国の景色が失われる」と警告してるのにねえ(笑)。

日本の立場を生かせ

稲田 保守派の論理としては、中国を牽制するためのTPPだと言います。そのためにも、アメリカとの連

帯を見せておいたほうがいいと。

田中 それはありえない話。中国の貿易量は対日貿易を百とすると、EUが二百六十、アメリカは二百二十という数字になります。EUとアメリカと中国が一緒にやっていると、い出したら、日本はひとたまりもないんです。だから、アジアと日本を分断する戦略なんです、TPPは。

稲田 中国を不愉快にしてまで、なぜTPPなんですか。推進派のもう一つの言い分は「アジアの市場を取り込む」。野田総理もそう言ってますが、TPPには中国も韓国も台湾も入っていない。どうやって取り込むんですか。TPPとは何の関係もありませんよね。

田中 本当にアジアを取り込むつもりなら、参議院の予算委員会でも政府試算が明らかになったように、ASEAN+6（日中韓、ニュージーランド、オーストラリア、インド）

のほうが経済効果が出る。ましてや、

TPP参加予定九カ国中、すでに六カ国と日本はFTA締結関係。さらに中国、韓国、EUとも交渉入りする。「なのはどうしてTPPが真っ先にくるのか」と聞かれた野田総理は、「ASEAN+6、または+3は政府間の検討段階だが、TPPは具体的な交渉がはじまっているから」と意味不明の発言で失笑を買いました。

ところが日経は、「ASEAN+6を日本政府は考えていたが、中国が+3にこだわったのでまとまらず、だからTPPに行く」と書いた。でもそれって、日本が中国に対して外交交渉力がないと白状したようなものでしょ。

中国が難色を示した理由はインドもいるからです。だったらインドと交渉して、「中国を外してASEAN+5をやりましょうか」と牽制すれば、中国も+6で動かざるを得ない

のにね。

稲田 日本の立場を上手く生かした、粘り腰のある外交がまったくできていませんね。

田中 中国やインドを巻き込んだ戦略を日本は打ち出すべき。繰り返すけど、TPPはアジアを分断する話なんですよ。

平均的日本人もフランス製のバッグを持ち、イタリア料理を食べて、デイズニールランドが大好き。お金で買えるものは「白」化している。でも、日本人の皮膚は「黄色」。物質的な中は「白」になっても外側は、そして精神は「黄色」のバナナなんです。それを忘れちゃいけない。

赤い貴族の饗宴

稲田 カナダとメキシコが参加を表明したといって動揺していましたね。

田中 中台韓もインドネシアもフィリピンもタイも不参加で、しかもT

PPに対抗して広域FTAをインドや中韓と締結すると、ASEAN首脳がバリ島サミットで了承したのですね。

TPP参加表明国の金融立国シンガポールは一次、二次、三次製品の全てを輸入している。ブルネイはLNGと石油、ニュージーランドは酪農乳製品、チリはレアアースの一次産品輸出で、二次、三次産品は輸入国。だから大いに輸出をして、安く輸入できるTPPはメリットがある。ところが、日本はそうではない。

アメリカとFTAを結んだ韓国は、GDPの四割を三星^{サムスン}と現代^{ヒョンダイ}で占める、いびつな構造。日本は大企業に加えて、裾野の広い中小のまじめな企業が貢献したうえでのGDPです。TPPの毒薬は、そうした製造業に及ぶ。そこが一番の問題なんです。

稲田 民主党を応援している組合だつて、TPPに参加すれば自分たちの雇用が脅かされかねない。経団連だつて、企業そのものは儲かるかもしれないませんが、雇用は悪化、給料も下落します。

田中 稲田さん、松下政経塾の議員と労働組合系の議員が民主党内で共存している理由って分かりますか。彼らは結局「ノーマンクラツラ」、

社会主義の特権階級、赤い貴族なんですよ。ケーススタディや運動方針という机上の空論で、「こうすればこうなるはず」って言ってるだけ。

稲田 野田さんも「日本の農家を絶対に守る」と言っているけれど一体、どれだけお金を使う気なんでしょうか。そもそも、民主党は小泉構造改革に反対し、「自民党の農家担い手政策は零細農家切り捨てだ。民主党はすべての農家を救う」って言って選

挙で勝って政権をとったんです。それで「TPPで農業改革。大規模農場経営を」なんて平気で言える神経が分からない。

田中 それを野田総理は補助金で救うと言っているけど、TPP参加で得られる経済効果は十年間で二・七兆円。政府自ら認めているから、一年間で僅か二千七百億円。これじゃ、いまの農業者戸別所得補償一年分の半分もまかなえません。

稲田 TPPは保守の正念場ですね。反対決議署名が二百三十二という数が集まりましたし、自民党は党決定をしたので、採決になれば党議拘束がかかります。わが党も頑張つて戦っていかないと。

田中 仮に屈辱交渉が終結しても、国会批准が必要。一年後にアメリカ大統領がオバマの保証もない。おつと、その前に野田政権が……（苦笑）。